

ごみの分別・リサイクルにご協力を

ごみ組成調査を実施しました

市では毎年1回、市内を8つの地区に分けて、1地区あたり2～3箇所の集積所を無作為に抽出し、家庭から出されているごみの中がどの程度分別されているかを調査し、今後の基礎資料を得ることを目的にごみ組成の分析を実施しています。今年度は平成25年10月～11月に実施し、結果は下記のグラフのとおりです。

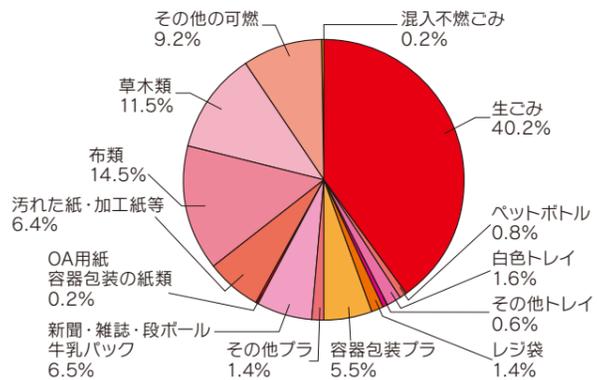
■生ごみの“もうひとしぼり”を

可燃ごみの約4割は「生ごみ」です。また「生ごみ」の80%から90%が水分と言われています。「生ごみのもうひとしぼり」で水分を少なくすることで、大幅なごみの減量につながります。水分が少なくなると、ごみの減量だけでなく、生ごみのイヤな臭いの防止やごみ袋の節約にもなり、より少ないエネルギーでごみを処理することが出

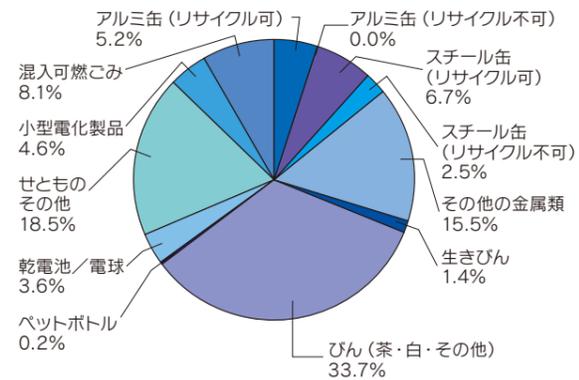
来ます。「生ごみのもうひとしぼり」のコツとして、空き缶やペットボトル、鍋のフタなどを押しつけて水切りすることで、直接触れずに生ごみの水分を少なくすることができます。

「生ごみのもうひとしぼり」で、ごみの減量にご協力ください。

可燃ごみの組成【グラフ1】 ※重量比



不燃ごみの組成【グラフ2】 ※重量比



生ごみコンポストや機械式処理機を使ってごみの減量化を

～市の補助制度をご利用ください～

市では、家庭から排出される生ごみの堆肥化による土壌還元を促進し、ごみ収集量の減量、資源の有効利用を図るため、生ごみコンポストや機械式処理機を購入した方に助成をしています。

- 【補助金額】
- コンポスト：購入金額の1/2
上限 3,000円(1世帯2基まで)
 - 機械式処理機：購入金額の1/3
上限20,000円(1世帯1基まで)

【申請手続】(必要書類等)
補助金交付申請書(市生活環境課)、領収書・仕様書(カタログ可)、印鑑、通帳(口座振込先の分かるもの)
※機械式処理機とは、一般的に電気で生ごみの水分を飛ばし、堆肥化・ごみの減量を行うもの(乾燥式)です。主に屋内で使用するもので、その他にバイオマス式、ハイブリッド式などがあります。電気店、ホームセンター、大型店舗等でお買い求めいただけます。
【申請期限】 購入後20日以内

有料広告欄



美しい筑波山を望む会場でナイスショット

美しい筑波山を望む「ほっとランド・きぬ」のグラウンドゴルフ場で11月14日、「第10回グラウンドゴルフ大会」が開催され、常総市、筑西市、八千代町、下妻市のグラウンドゴルフ愛好家180名が参加し、日頃の練習の成果を存分に発揮しました。

晴天に恵まれた中でのプレーでは、ナイスショットが連発でホールインワンが出るなど、会場に歓声が沸いたり、惜しいショットにはため息が出たりとにぎやかな雰囲気でした。

優勝した市内皆葉の大関多喜子さんは「ラッキーが重なっただけ、運が良かった。グラウンドゴルフは、余計なことを考えず、夢中になってやれる運動です。これからも健康のため続けていきたい」と話してくれました。

練習の成果を披露 第10回グラウンドゴルフ大会



大宝八幡宮十二座神楽の「五行の舞」を披露する子どもたち

古典の意義を再認識しようと「古典の日(11月1日)」制定を記念した「民俗芸能フェスティバル」が11月24日、下妻市文化会館で開催され、県内外から16団体が参加し、囃子や太鼓、舞などの伝統芸能が披露されました。

開会のあいさつで大塚武彦実行委員長は「地域の人口が減少する中で、このままでは伝統芸能が先細ってしまう。子どもたちには慈愛の念を持って、後継者育成に努めていきたい」と日本の文化を次世代に継承していく大切さを訴えました。

当市からは、巫女装束の子どもたちが舞う「大宝八幡宮十二座神楽」と、大杉囃子の「親子体験教室」が披露され、会場からは惜しみない拍手が送られました。

伝統芸能の祭典 古典の日制定記念「民俗芸能フェスティバル」

まちのわだい Town Topics

文化を通して心ふれあう
平成25年度下妻市文化祭

市民の生き生きとした文化活動を紹介する「平成25年度文化祭」が、下妻会場と千代川会場で10月27日から11月20日まで開催されました。

市民によるステージ発表や、児童から大人まで幅広い作品の集中展示が行われた11月1日から3日には、多くの市民が会場に足を運び観覧を楽しみました。また、ちぎり絵や茶道、日本舞踊などの体験教室も人気を集め、楽しみながら文化活動にふれました。

初めてちぎり絵を体験した小学5年生の女子児童は「先生のアドバイスで、思ったより早く、きれいに作品ができた。とても楽しかったので、またチャレンジしたい」と力作を手に、笑顔で話してくれました。



ちぎり絵の体験を楽しむ小学生たち

茨城県の水際線(川や湖沼などの水辺とその周辺)の水辺環境を次世代に引き継ぐとともに、今後の水辺環境を活かしたまちづくりを考えようと「第27回茨城県水際線シンポジウム」が11月19日、下妻市民文化会館で開催され、市民活動団体や関係者など約350名が参加しました。

パネルディスカッションには、市内で鬼怒川や小貝川の水辺環境を活かした地域活動を実践する市民団体などの代表者5名が参加し、これまでの活動報告と今後の課題などについて発表しました。この中で、花と一万人の会の飯島順一会長は「活動を継続するうえで、『民の役割』と『官の役割』を明確にしていくのが重要」と官民一体となった継続性のある協働のまちづくりを提言しました。



水辺を活かした地域づくりを考えるパネルディスカッション

川と人とのふれあいを考える 第27回茨城県水際線シンポジウム

問い合わせ 市生活環境課 ☎内線14255・14226